資料４

吉野川流域コウノトリ･ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の目的や目標を示すキャッチフレーズ（案）

１．吉野川流域生態系ネットワーク形成の目的・目標

（１）目的（自然環境条件及び社会環境条件に基づく２点）

目的１：コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成

目的２：コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

（２）目標（ビジョン）

◇コウノトリ･ツル類がくらしていることを日常の光景とし、これらが舞い降りる川や田んぼは、カエル・魚・虫などの生物多様性が豊かで、良好な景観の水辺が広がっている場所にする。

◇川と里での生態系ネットワークの取組を、山や海へも広げ、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を最大限に守り活かした産業と、落ち着いた暮らしが営まれているようにする。

◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりを実感できる、吉野川流域独自の魅力的で持続性のある地域づくりを展開する。

２．キャッチフレーズ（案）

上記の目的･目標を端的にイメージしやすく､吉野川流域において多様な主体が連携･協働し､コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による、地域活性化及び経済振興の実現を図るためのキャッチフレーズ（案）を作成した。

【A 案】人・生き物・地域の未来を拓く

・自然とのつながり、人とのつながりをイメージした。
・生態系の保全を経済の好循環につなげるというキーワードを「地域の未来を拓く」に込めた。

【B 案】阿波行っきょん？　コウノトリくらす潤いのまち

・徳島の昔の呼び名「阿波」で、川を取り巻く地域を表した。※CDE 案の「阿波」も左に同じ。
・「行く？」を阿波弁「行っきょん？」にして、徳島らしさ、なじみやすさや可愛さを持たせた。
・生物多様性が豊かであること、良好な水辺景観の象徴として「コウノトリ」を挙げた。※CDE 案の「コウノトリ」も左に同じ。
・「潤いのまち」で、自然や歴史・文化・伝統を守り活かした、魅力的で持続性のある地域を表した。
・「阿波行っきょん？」で、県内外からたくさんの人に、コウノトリに選ばれた吉野川流域を訪れてもらいたい、という願いを込めた。

【C 案】阿波国踊るコウノトリ

・「阿波国（あわのくに）」は「阿波」と同様に徳島の昔の呼び名で、川を取り巻く地域を表した。
・阿波踊りに掛けた「踊る」は、元気に舞うコウノトリの躍動感を表すとともに、地域の多様な主体がひとつになって栄えるイメージも込めた。

【D 案】ツル・コウノトリ舞い、阿波おどる

・コウノトリと同様に、生物多様性が豊かであることや良好な水辺景観の象徴であるとともに、長寿や繁栄の象徴として縁起の良い「ツル」を挙げた。※E 案の「ツル」も左に同じ。
・「舞う」は、鳥の飛翔に加えて、言葉から連想される“めでたさや華やかさ”を将来期待されるまちのイメージとして添えた。
・「阿波おどる」は、C 案と同様に、阿波踊りに掛けて、地域の多様な主体がひとつになって栄えるイメージを込めた。
・「舞いおどる」で響きの良さを持たせた。

【E 案】阿波に御利益 ツル・コウノトリ

・お遍路（四国八十八ヵ所の霊場を巡る）で受けられると言われる「御利益」に掛けつつ、地域の人にも来訪者にも幸せがもたらされる地域、という願いを込めた。
・ツルとコウノトリが地域活性化や経済振興に重要な役割を果たすという意味を込めた。